

べっぷの未来まちづくり支援補助金活動報告書

1 団体名 特定非営利活動法人みんなの教室
2 活動内容 ① パネルディスカッション 別府や大分県内で子どもの居場所を運営している8団体の方に問いを投げかけ、疑問の解決に繋げるためディスカッションを行った。 ② 各団体のブース設置 各団体ブースには、活動内容を見たり相談をしたり、繋がることのできる体制をとった。また、チラシコーナーを設置し、必要な情報を持ち帰れるようにした。事業所のお菓子や雑貨を販売し、バルーンアートやゲームコーナーを設置した。 ③ 基調講演 2人の講師が困りを乗り越えて活動したことや居場所の必要性などについて講演した。
3 活動期間 2025年 8月 3日から 2025年 8月 3日まで
4 活動実施内容 ① パネルディスカッション 別府や大分県内で子どもの居場所を運営している8団体の方と株式会社 Doit の土井敏裕さんが登壇し、問いを投げかけ、各団体の取り組みを深掘りしたり疑問の解決に繋げたりすることができた。また、団体紹介の時間を設け、全ての団体がパワーポイントを使って紹介した。 ② 各団体のブース設置 ブースには、21団体が参加し、活動内容を見たり相談をしたりすることができ、繋がることができた。ブースの工夫も多くあり、ワークショップや販売も行った。また、チラシコーナーを設置し、必要な情報を持ち帰れるようにした。事業所のお菓子や雑貨を販売し、バルーンアートやゲームコーナーもあるので、親子でも楽しむことができた。 ③ 基調講演 にじいろイラストレーター・こっちゃんと放送大学船石萬寿さんが、困りを乗り越えて活動したことや居場所の必要性などを「わたしたちからのメッセージ」という題目で話した。
5 活動の成果 150名以上の参加者が来場した。子育て世帯だけではなく、市の議員や課長、教育委員会の関係者、支援に関心のある年配の方々も多く参加しており、地域全体で子どもを育てる基盤を広げる期待が示唆された。普段交流の少ない事業者や団体間での新たなつながりが生まれ、相互理解が深まった。フォーラム後も参加団体間の情報交換を活発にするためグループLINEを維持し、各団体のイベント告知などに活用していくこととなった。
6 反省点や今後の目標 参加者の半数が子育て世帯であったものの、ブースでの深刻な相談はなかった。今回は室内での開催だったが、次回は屋外や、新設の図書館といった、よりオープンで誰もが立ち寄りやすい広い会場での開催を望む声が上がった。多くの団体が有意義なものだったと評価し、5年、10年と続く長期的に開催し、地域全体での子どもの居場所づくりに貢献していきたい。